

## Ⅱ 自転車に乗りたくなるまちおおいた

### 使いやすいしくみづくり

#### 【自転車と他の交通機関との連携の推進】

鉄道駅、バス停留所付近の駐輪場を整備することにより、公共交通機関と自転車の乗り継ぎの利便性を高めるとともに、マイカーと自転車の乗り継ぎも含めた自転車と他の交通機関との連携を進めます。

### 具体的な取り組み

平成17年度  
実施

#### ・公共交通機関の利用促進及び渋滞対策

平成17年度にJR鶴崎駅前約750台、坂ノ市駅前約430台の駐輪場を新たに整備しました。このことにより、平成18年度以降は、サイクル&レールライドのPRを行い、駐輪場の利用促進とあわせて、マイカーからの転換の推進を図ります。

また、既に整備された駐輪場を活用したサイクル&レールライドを促進するとともに、パーク&サイクルライドやサイクル&バスライドについて、関係機関と協議しながら取り組みます。

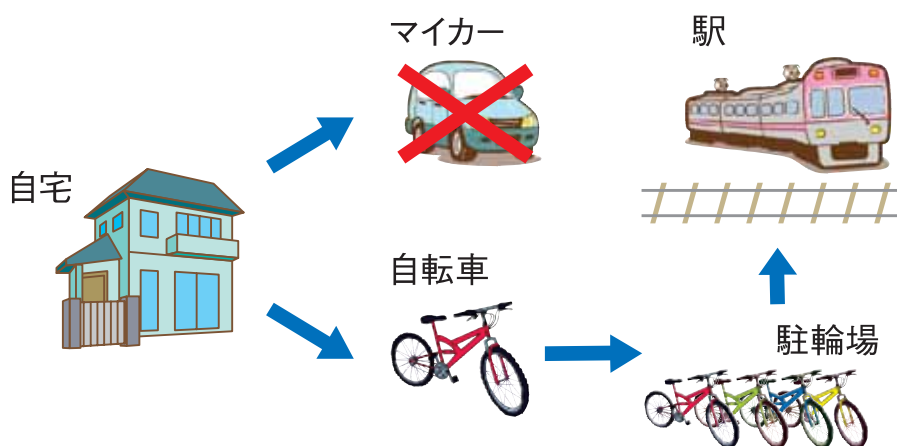
#### ・鉄道駅、バス停留所付近における駐輪場の整備

駐輪場が未整備の鉄道駅、パーク&ライド（マイカーから公共交通機関への乗り継ぎ）の検討を行う鉄道駅及び植田地区など中心部直通バスが多く利用されている地区のバス停留所付近での駐輪場整備を促進します。

#### ・公共交通機関への自転車の持ち込みの調査・研究

鉄道やバスなどの公共交通機関への自転車の持ち込みについて、一時的、継続的な実施の可能性について調査・研究します。

#### ■ サイクル&レール（バス）ライド



#### ■ 鶴崎駅前駐輪場（平成17年度整備）



#### ■ 豊後国分駅前駐輪場



## 使いやすいしくみづくり

### 【レンタサイクル事業の推進】

市民や観光客の利便性を高めるとともに、中心市街地におけるクルマの交通量の削減、駐輪場の効率化、地域活性化や観光振興にもつながるレンタサイクル事業を行います。

## 具体的な取り組み

### ・登録制レンタサイクル社会実験と新たな展開

平成17年9月から12月の3ヶ月間、市内12軒のホテルに計40台の無料レンタサイクルを置き、宿泊客に利用してもらう実験をNPO法人と協力して行いました。

全体平均の稼働率は14.2%でしたが、ホテルによっては、約70%と高いところもあり、利用者アンケートなどからサイクルポートの増設や鉄道駅への設置を望む声が多く、利用者の約6割が有料でも利用すると回答するなど、自転車の潜在的な可能性が実証され、早急な環境整備の必要性が認識されました。

社会実験の結果をふまえ、関係機関との調整を行いながら、大分駅、主要公共施設、宿泊施設等にサイクルポートを設置し、相互間の移動、各ポートでの借り出しや返却が自由にできるしくみづくりを検討します。

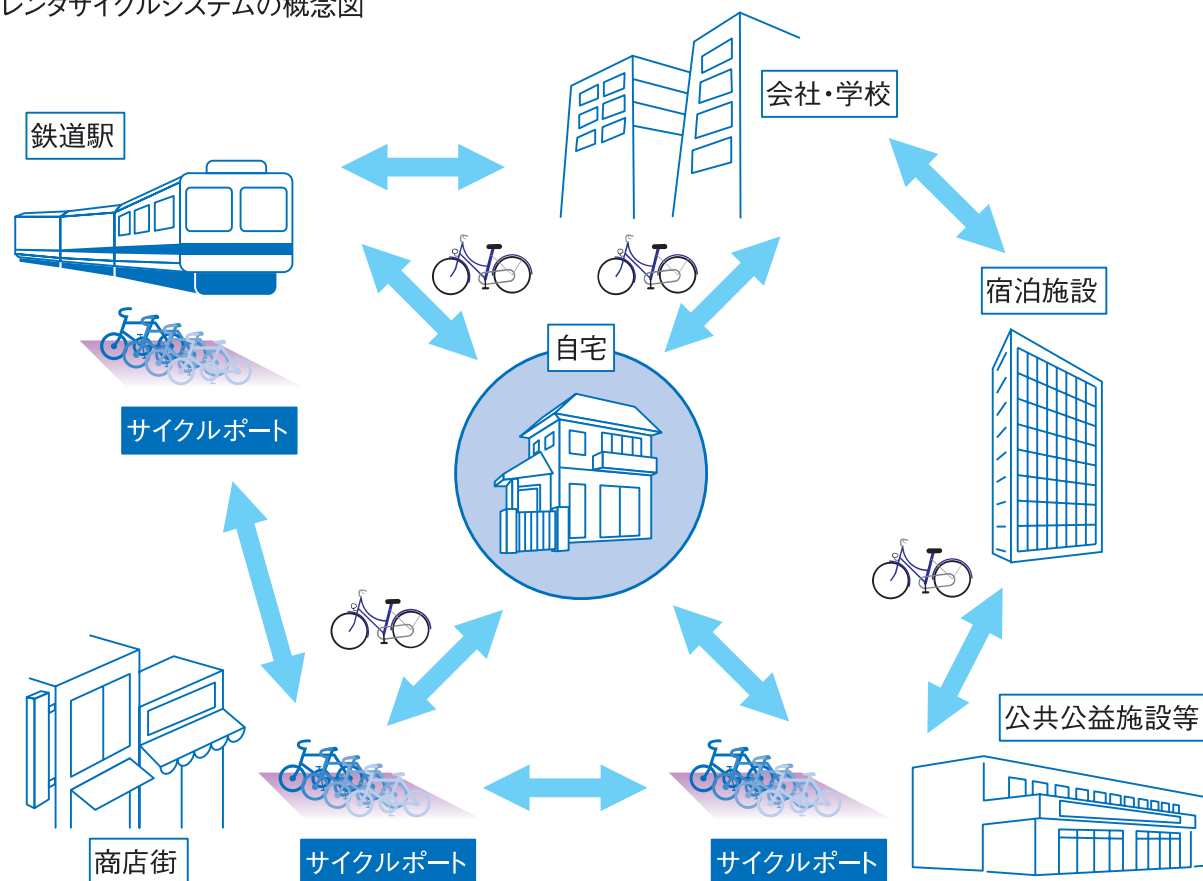
また、観光レンタサイクルなど、観光地での取り組みを検討します。

平成17年度  
実施

■社会実験に使用した自転車



■レンタサイクルシステムの概念図



## 乗りたくなるきっかけづくり

### 【自転車マップの作製、活用の推進】

市民や観光客が自転車に乗りたくなるような、自転車利用者に役立つ楽しい情報を盛り込んだ「自転車マップ」を市民と一緒に考え、アイデアを出し合いながら作り、活用します。

## 具体的な取り組み

平成17年度  
実施

### ・自転車マップの作製

平成17年度にアンケートや3回のワークショップを開催し、市民の意見を反映させた自転車利用のためのさまざまな情報を盛り込んだ「おおいた自転車マップ」を作製しました。

今後は、広く市民や観光客に配布するとともに、より使いやすいものにするための改訂を行います。また、インターネット上のホームページや携帯電話などの携帯情報機器でも手軽に見ることができる「電子版自転車マップ」の作製を検討します。

### ・自転車マップを活用したイベントの開催

マップを作製、配布するだけでなく、マップに掲載されたルートを巡るサイクリングやポイントラリーなどの楽しいしかけと組み合わせたイベントを開催し、マップの活用を図ります。



## 乗りたくなるきっかけづくり

### 【わかりやすい自転車案内誘導サイン整備の推進】

自転車利用者の利便性の向上と自転車が似合うまちの取り組みのPR、イメージの定着のため、市内の主要な地点にわかりやすいサイン、標識を整備します。

## 具体的な取り組み

### ・シンボルマーク看板の設置

主なルートの起終点や観光拠点にシンボルマーク看板を設置します。

### ・カラー舗装と路面等への誘導表示の設置

歩道の自転車通行帯のカラー舗装によりルートを明示するとともに、必要に応じて地点や距離などの文字情報を路面や見やすい高さに示します。

### ■シンボルマーク看板



## 乗りたくなるきっかけづくり

### 【自転車を活かした観光・地域振興の推進】

大分の魅力を新発見、再発見するサイクリングイベントなどを開催します。

## 具体的な取り組み

### ・市民向けのサイクリングイベントの実施

大分、佐賀関、野津原の合併による新大分市の魅力ある地域資源や大友館跡をはじめとする歴史資源などを新発見、再発見し、市民が自分のふるさとのことをよりよく知り、見直すきっかけとなるような地域と密着したサイクリングイベントを実施します。

### ・自転車を活用した観光振興

街中のポタリング(散策)や観光施設への移動手段に自転車を利用することにより、自転車で走ることそのものや道中の景色、寄り道などを楽しんでもらえるよう、観光・商業関連団体と連携して、自転車マップなどによるルート、スポット情報の提供やレンタサイクルの利用案内を行います。

### ・大分を全国に発信できるような特色のあるイベントの開催

自転車先進国と言われるドイツなどでは、地域における余暇型サイクリングではもちろん、日常的にも鉄道への自転車持ち込みが行われています。日本では全国的にもめずらしい鉄道への持ち込みなどのユニークなしかけを絡めた、大分の魅力、自転車の魅力を全国に発信できるような特色あるイベントの開催を、広域化、定期化も視野に入れ、検討します。

■今市の石畳道(野津原)



■軽便鉄道跡(佐賀関)

